

研究主題「思考力・表現力を高める算数科の授業の工夫」のもと、算数科を通して児童の思考力・表現力を高めるための研究も3年目をむかえました。

2年間の算数科の研究を通して、思考力・表現力を高めるには、「強い問いの継続」が必要不可欠であり、①課題提示における深い学びにつながる発問、②対話的活動から全体検討への深まりのある問いかけや授業の進め方、③数学的な見方、考え方を伸ばすための振り返りを、意識して取り入れることが重要であると考えました。

1学期は、2年生の「ひき算」、6年生の「円の面積」、3年生の「あまりのあるわり算」の授業を通して、検証しました。



既習事項のたし算の答えの確かめを活用して、ひき算の確かめはできないかを問いかけることで、児童は、「どうしたらよいか」「他にどんな方法があるか」など強い問いをもって話し合いを進める姿が見られました。

習熟度に合わせて効果的な対話的活動を行いました。3~4人でホワイトボードや円卓を使って考えをまとめていくことで、積極的に意見を交換する姿が見られ、円の面積の公式を導き出すことができました。



対話的活動の後に全体で子供たちの考えを検討しました。子供たちは、共通の考え方を見付け、□が5の段にない17も、あまりの考えを使えばわり算の式に表すことができると知りました。

今後も授業の中で様々な工夫をし、子供たちの「思考力・表現力」を高めていきたいです。

《走り方教室 — 3年生》

バルセロナオリンピックに日本代表として出場された渡辺選手をお招きし、走り方教室を行いました。素早いスタートダッシュの方法、上手なコーナーの回り方などを教わりました。「一歩目を自然に出すために体を傾ける。」「コーナーを回るときは、曲がりたい方向に頭を向ける。」など、体を上手に動かすポイントを、実践を交えて知ることができました。最後に、教わったポイントを意識して、80mを全力で駆け抜けました。



《体育：水泳「着衣泳」 — 5年生》

水泳の学習の一環として「着衣泳」を行いました。レジャーにおいて、「水」に親しむことが多くなる夏休み。服を着たまま落水したときにどのような行動をしたらいいのかということテーマとして、学習を進めました。水を含んだ衣服がどれだけ重たいものになるのか、その状態でどのようにすれば自分の命を守ることができるかが分かった学習になりました。今回の学習で学んだことを生かす場面に遭遇しないことが一番ですが、万が一のときに活用できるものにしてもらいたいです。

